

○ 重点実践事項に基づいた評価

重点実践事項	評価項目	評価 ()は1回目
1 障害の重度・重複化及び多様化に対応する教育課程の編成	(1) 学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の実践に努めているか。	3. 2 (3. 0)
	(2) 児童生徒の実態を踏まえた教育活動を推進しているか。	3. 4 (3. 3)
2 児童生徒の生涯を見通し、かつ教育的ニーズに基づいた「個別的教育支援計画」の実践的活用	(1) 児童生徒の的確な実態把握に基づいた「個別の指導計画」を作成し、その活用に努めているか。	3. 3 (3. 2)
	(2) 学習効果を高める教材・教具を創意工夫しているか。	3. 2 (3. 3)
	(3) 「個別的教育支援計画」充実のための家庭及びやまびこ医療福祉センター、関係機関等との連携を図っているか。	3. 5 (3. 4)
3 本校の現状と課題を踏まえた実践的研究の推進	(1) 確かな授業改善につながる研究を推進しているか。	3. 2 (3. 2)
4 健康状態の維持・改善や安全対策及び危機管理体制の充実	(1) 多様な指標に基づくきめ細かな健康観察と教育に生かす健康相談を実施しているか。	3. 6 (3. 6)
	(2) 安心・安全な医療的ケアが実施されているか。	3. 7 (3. 7)
	(3) 効果的な感染症対策を実施しているか。	3. 7 (3. 5)
	(4) 状況に応じた緊急時対応を推進しているか。	3. 6 (3. 6)
	(5) 安全点検に基づく安全対策を推進しているか。	3. 6 (3. 6)
	(6) 一人一人を生かす学習環境を整備しているか。	3. 2 (3. 4)
5 家庭及びやまびこ医療福祉センター、地域等との連携の推進	(1) 家庭及びやまびこ医療福祉センター、地域との連携を図っているか。	3. 4 (3. 6)
	(2) 交流及び共同学習を推進しているか。	3. 2 (3. 4)
6 特別支援教育の充実に向けた地域におけるセンター的機能の整備と充実	(1) 支援の必要な子供やその保護者、関係者に対する教育相談は充実しているか。	3. 4 (3. 5)
	(2) 近隣の関係機関や小・中・高等学校等との連携と専門性を生かした指導や支援を推進しているか。	3. 4 (3. 5)
7 肢体不自由教育の今日的課題を踏まえた教育の推進	(1) 肢体不自由教育の今日的課題を踏まえた教育を推進しているか。	3. 1 (3. 1)

※ 評価は「4：十分達成できている」「3：おおむね達成できている」「2：やや不十分である」「1：不十分である」の4段階で実施。

<まとめとして>

- 全体的におおむね「達成できている」という結果が出ている。
- 実践事項4「健康状態の維持・改善と安全対策及び危機管理体制の充実」に関してはポイントが高い。
 - ・ 感染症対策については、予防のためのマスク着用、登校前の清掃、病原菌を持ち込まない・持ち出さないなど職員が意識して取り組んだ成果だと考える。
 - ・ 児童生徒の安全確保の視点から、月1回の安全点検やヒヤリハット報告、点検で上がった箇所等へのすばやい対応などが評価につながっていると考える。
 - ・ 今後は、学校保健委員会で話題となった災害時における緊急対応についても具体的な取組を考え、安全対策や危機管理体制の充実を図っていきたい。
- 実践事項1「障害の重度・重複化及び多様化に対応する教育課程の編成」に関しては、今年度教育課程についての課題を整理し、その改善に取り組んでいるところである。特に小学部、中学部とも学習指導要領を踏まえながら合同学習に関する実践の見直しを行っている。合同学習は、今年度の本校のテーマ研究にも位置付け、日々の授業実践や改善を繰り返しながら、教育課程委員会や教科等の係会、学部会でも検討を進めてきている。教育課程の課題解決に向けて少しずつ改善が図られており、その結果が評価に表れてきたと考えている。今後も、肢体不自由教育の今日的課題や本校の児童生徒の一人一人の教育を見つめながら、充実した教育活動が行えるように努めていきたい。
- 「教材・教具の創意工夫」「確かな授業改善につながる研究」「学習環境の整備」「交流及び共同学習の推進」については、1回目の評価よりもポイントが下がっている。これらは、それぞれ取組を進めてきているが「まだまだ不十分」という職員の意識がポイント低下につながったのではないかと考えている。「十分達成できている」という基準をどこに置くかで評価も影響されるものと思われるが、「十分達成」している状態像を具体化し、それを目指す取組を職員一人一人が行っていく必要がある。